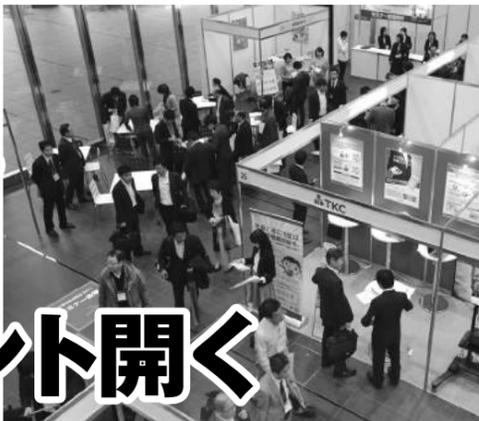


会計事務所博覧会2017 ITの進化を味方に。 時流に乗るための 最前線を担うイベント開く



会計業界の大変革。環境変化に対応できる事務所経営を提言

本紙「税界タイムス」を発行する(株)ゼイカイが主催した第4回「会計事務所博覧会2017」=写真。「ITの進化を味方に。税理士のワークスタイルが広がる」をテーマに、10月19、20日の2日間にわたって「秋葉原UDX2階 アキバ・スクエア」にて開催された。会計事務所の発展と成長のためのノウハウやコンテンツを集結させた業界唯一のイベントは、回を重ねるごとに内容が充実。クラウドやFintech(フィンテック)の進展による環境変化の中、税理士(会計事務所)はどのような未来を描いていけばいいのかを考える絶好の機会となった。

会計事務所の所長、職員らを対象に、変化する会計業界の“今”を伝えた会計事務所博覧会。今年の出展企業は昨年の28社から増加して33社と過去最大に。ここ数年、会計事務所の話に挙がっているのが、会計ソフトを中心とした様々なクラウドサービスやそれに関連した「仕訳の自動化」、そして最近では人工知能(AI)も注目されている。

しかし、その流れにいち早く対応し、時流に乗るための準備を進める事務所はほんのごく一部。多くの事務所は不安や悩みを抱えているのが現状だ。

会計事務所博覧会は、こうした環境変化に対応する会計事務所づくりを最大のテーマとし、将来の方向性を考える場として開催している。

最新の財務・会計システムの展示ほか、会計事務所の顧客開拓、業務拡大、コスト削減、効率化経営などに関連するシステム・サービスをワンストップで検証できるのが会計博の最大の特長。なかでも今年は、進展を続けるクラウド化・仕訳の自動化等に対応する最新のITツールに注目が集まった。

また、AI時代を迎え、それに関連したセミナーやパネルディスカッションは目玉企画のひとつ。今年のセミナーは、岩田会計事務所(栃木・小山市)で実際に職員として仕事しているロボット「Pepper」(ペッパー)にすべての司会進行を依頼。セミナーアンケートでは、回答者の18%が、「ペッパーの事務所の導入に興味がある」と回答した。昨年同様、セミナー会場以外に館内モニター中継席までほぼ埋め尽くされ、講演者の話を真剣に聞き入る光景が目立った。

初日は、イベントの特別協力団体の(一社)Fintech協会から、工藤博樹代表理事と幹部らによる、「フィンテック革命がもたらす会計業界への影響」と題したパネルディスカッションが開

催された。フィンテックの最新状況や会計事務所が注目する顧問先の銀行取引データを仕訳化するシステムに関する今後の動向や最新情報について、有意義なディスカッションが繰り広げられた。

次に、電子政府で知られる「エストニア」で何が起きているのかをテーマに、現地を視察したさくら中央税理士法人代表税理士の安田信彦氏と特別ゲストのeSqrQNow Founder & CEOの小森努(ガブリエル)氏が対談。会計事務所のビジネスの現状や未来を語るディスカッションで、日本の会計事務所の将来像を示した。

そして、初日最後の講演は、会計業界においても前線で活躍する女性が目立つ中、今後の事務所発展の重要な要素である女性の働き方改革にスポットを当てたシンポジウムを開催。JP女性会計人フォーラム代表の中島加誉子税理士がコーディネーターとなり、税理士法人TOTAL社員税理士の松浦薫税理士、黒川税理士事務所所長の黒川明税理士、ミッドランド税理士法人の藤川純一税理士が、「女性会計人の活躍が導く!新しい事務所発展戦略」をテーマに、女性戦力の現状と活用事例等について、多角度から検証した。

2日目の「デジタル化する税務行政と税理士業務の未来」と題したシンポジウムは、国税OBの女性税理士も登壇し人気を集める企画となった。

AIやICTを活用した税務調査や税務相談など、近未来型の税務当局の姿が話題になる中、税務行政のスマート化による税理士業務への影響をはじめ、税務手続きの簡素化・効率化によって、電子申告、そして来るべき消費税インボイスなど、税理士業務の何がどう変化し、どのような対応が求められるかについて、徹底討論した(4面、5面に特集記事掲載)。



INDEX

- クラウド版「経営戦略ナビ」税理士が開発…… 2面
- 「Pepper」導入で事務所PR …………… 3面
- 税務行政のデジタル化と税理士業務 4・5面
- IT時代に対応した職員研修システム…… 6面
- 税理士法人に「不動産」明記でアピール … 7面
- MF、クラビス子会社化で目指すもの … 8面

最終は、今回のメインテーマにふさわしい「クラウド活用で顧客拡大を成功している気鋭の税理士が本音トーク」と題したディスカッション。モデレーターとして(一社)中小企業税務経営研究協会理事の大野晃税理士を中心に、同研究協会代表理事の蔵田陽一税理士、石田紘史税理士事務所所長の石田紘史税理士、税理士法人イデアコンサルティング代表社員の伊東大介税理士ら若手が、クラウド会計の導入方法と、クラウド会計を使うことで上手に集客に結び付けた事例などを公開。多くの税理士が抱く疑問にもズバリ応え、大きな関心を集めた。

今年の来場者アンケート(有効回答数288通)では、「次回も来場する」が55%と過半数を超え、「AI時代の会計事務所経営」「クラウド進展、フィンテックと税理士業務」「業務効率化」「仕訳の自動化」「会計事務所の今後の価値のつくり方」などをテーマにした開催を望む声が高かった。

次回開催は2018年10月18日(木)と19日(金)に決定。詳細が決定次第、紙面やホームページ、メールマガジンで案内する(メールマガジン登録はゼイカイネットのトップページより)。

第4回 会計事務所決算品質大賞 伊藤真樹税理士が日本一に輝く

「会計事務所博覧会」において毎年開催されている「会計事務所決算品質大賞」コンテスト、第4回目の今年は、伊藤真樹税理士事務所の伊藤真樹(まさき)税理士が優勝を勝ち取った。

決算作成のスピードと正確性を競ったコンテストに、今年は全国から39人が参加。会計事務所博覧会決算品質大賞実行委員会が厳正に審査を行った結果、初参加の伊藤真樹税理士(東京・大田区、利用システム: 弥生会計)が優勝。2位は、黒川税理士事務所(東京・多摩市、利用システム: 弥生会計)経営支援部の新巻大輔氏、3位も同事務所経営支援部の高木宏務氏となった。伊藤氏は2位と点数的には同点だが、約40分早く解答したことで優勝した。

伊藤税理士は、「こういった作業は昔から好きでした。ただ、東京オリンピックの年に生まれた年齢なので、反射神経や理解の速さも若い頃より衰えているのを痛感しており、速さや正確性がどこまで通用するか心配でし



▲優勝した伊藤真樹税理士にトロフィーが授与される

たが、幸いにも優勝することができました。まだまだ若い人たちに負けたくないぐらいのクオリティを保持できているのがわかったのが嬉しかったですね。決算処理は若手に任せて、その検算作業と熟考業務に専念する先生やマネジメントに専念する先生も多いかと思いますが、私はまだまだこういった作業もやり続けて、関与先のために努力を重ねていきたい」と語った。

なお、来年度もこのコンテストは実施される予定で、詳細や今年度出題された問題は、「会計事務所決算品質大賞」ホームページ(<http://zeirishi-contest.com/index.php>)にて公開される。